

令和7年度福井県立ろう学校 学校関係者評価書

(問)

- ・スクールプランに関する学校の取組及び学校評価の目標に対する成果や課題の分析は適切か、どうか。
- ・成果と課題を踏まえた今後の改善策・向上策は適切か、どうか。
- ・その他(学校運営に関すること全般、御意見、御感想、アドバイスなど)

(意見を聞いた方)

福井県ろうあ協会会長、福井県ろうあ協会理事、本校PTA会長 計3名

(意見欄)

- 1 教育課程・学習支援・幼児支援【幼稚部】
 - 2 教育課程・学習支援・児童支援【小学部】
 - 3 教育課程・学習支援・生徒支援・進路支援【中・高等部】
 - 4 生活支援【寄宿舍】
 - 5 センターの機能【教育支援部】
 - 6 教職員の専門性及び授業力の向上【図書研究部】
 - 7 人権教育の推進【学校全体】
- ・1から7までの具体的取組について、成果や課題の分析、改善策・向上策について適切との回答を得られた。

8 その他

○幼稚部・小学部において、成人ろう者をロールモデルとして来校いただき、話を聞くというような座談会的なものはあるか？

→【幼稚部】幼児と成人ろう者との座談会的なものは実施していない。保護者とは、年に1~2回卒業生等に来ていただいて勉強会として交流がある。また、手話勉強会としてろうの講師に手話を教えていただいている。今年度はデフリンピックがあったため、デフバスケの丸山選手に来校いただき、子どもたちがボール遊びを通して関わる時間をもつことができた。

→【小学部】デフバスケの丸山選手とバスケットボールを通して複数回交流している。また、今年度は光道園へ行き、光道園で働いているろう者との交流を図った。ろうの講師との手話学習も実施している。

○今後、ろうあ協会の理事たちが来校して、児童生徒たちと座談会等で交流ができるとよいと思っている。

○卒業後、生徒たちの居場所の確保が大切である。ろう学校卒業後、OB・OGの集会有るのか？福井県ろうあ協会の活動を通してパイプを結ぶのが大切ではないかと思っている。社会人生活、大学生活の苦労や大変さ等語り合う場が大事だと思っている。

→【中・高等部】学校が主体となって開催している集会等はない。同窓会には参加している様子である。卒業後にろう者の卓球サークル等を通して交流している生徒もいる。授業の中で卒業生をお呼びして交流を行ったり、文化祭では手話サークルの方と交流したりしている。また、卒業生を招いて、中・高等部生と交流し、卒業後の生活についての疑問などに応えていただいている。

○卒業生同士がSNSで繋がっている。県外の卒業生ともつながっていることがとてもいいと感じる。

○ろうあ協会では、ろう者・聞こえにくい人の社会参加を助けるために活動している。現状では、職場でのコミュニケーションが取れず、引きこもっているろう者がいる。ろう者を寄宿舍指導員等として採用できないか。県外では大宮ろう学校で事例がある。

→欠員が出れば、ハローワーク等で募集することはある。今後検討していけるとよい。

(学校関係者評価を踏まえた今後について)

・今年度の取組については、保護者や学校関係者からは概ね良いとの評価を得た。今後は、各学部、校務部等の課題の改善策やいただいた学校関係者評価等を踏まえ、次年度の取組に生かしていきたい。

・ろう学校卒業後、人とのつながりを大切にできるよう、成人ろう者との学び合い等についていろいろな活動を通して広げていきたい。

・卒業生同士のSNSでの交流が有効に活用され、互いの成長や支えにつながる有意義なものとなるよう学校は情報モラルの啓発と安全な利用環境づくりに努め、トラブル防止に配慮した取組を進めていきたい。